



子剃りは無病長寿」など、大津絵にはさまざまな効験が得られると信じられました。

明治になると鉄道の開通とともに大津絵もすたれていき、安価なため大事にされなかった大津絵は現存する数も少なく貴重なものとなっていきます。

西洋の抽象絵画にも通じる心象の表現や手法は多くの画家（ピカソ等）にも影響を与えています。もしかしたら、世界に

所在地：大津市園城寺町33
電話：077・522・3690
ファクス：077・522・3150
開館時間：午前9時～午後4時半
休館日：なし
入館料：大人500円(30人以上の団体400円)、高校生300円(同250円)、中学生以下無料
ホームページ：<https://enman-inn.com/about/museum/>

旅人に人気 手軽な土産物

時代とともに 意味合い変化

県西部、緑豊かな長等山の麓に圓満院門跡があります。

大津絵美術館は、重要文化財・宸殿のすぐ横に併設され、歴代の任職は寄付や買い求めた大津絵を大切に保管しながら、たくさんの方にご覧いただいております。

ります。

圓満院は1000年を超える歴史があり、987(寛和3)年創立、村上天皇の第3皇子悟圓親王の開基で、その長い歴史の中ではたくさんの方の保護もしてきました。

大津絵もその中の一つです。大津絵とは、江戸の初期・寛永の頃、京都の町絵師や仏画師が東海道大津の宿(追分、大谷)で土産物として売り出したのが始まりでした。

旅人の求めに応じ、その場で紙に描いていたようです。値段は3文〜4文(50〜100円ぐらい)。かさばらず持ち運びしやすいため人気となり東海道を行き交う旅人たちの手により各地に広まってきました。

土産物として広まった大津絵は、時代とともにその意味合いを徐々に変化させていきました。

キリシタン禁制化の中では弾圧を逃れることができたそうです。

江戸の中期になると、風刺画や世俗画の色が濃くなっていきます。

展示品の中には、特に人気のある「鬼の寒念仏」(写真①)があります。鬼は、寄進者を示す奉加帳を左手に、念仏を唱えながら鉦を打つための撞木を右手に持ち、背中には唐傘を背負い行脚に出かける様子は、偽善者の姿と言われ、ユーモラスな姿の中にも人の心の有り様や人生観までもが表現され深く考えさせられます。

大津絵は多い時で120種類ほどに加え、19世紀以降には人氣の絵が10種まで絞られていきました。風刺的な意味合いや道徳的な意味合いも失い、代わりに護符の用途を持つようになり



③「雷公の大鼓釣り」。そこそこのつけいぶりが人気



②「藤娘」。明るい世界への誘い。女性の守り神としての藤の化身